

Safe Volu

(Former First Aid)

静岡県赤十字安全奉仕団機関紙 No.57 平成19年1月1日発行
新年明けましておめでとつございます、今年もよろしく！！

～今年も団員の皆さんと、そして多くの赤十字理解者の皆さんと共に活動します～

県民・社員の皆さん、赤十字関係の皆さん、そして団員の皆さん、新年明けましておめでとうございます、今年もよろしくお願ひいたします。昨年は、「エレベーターに関する事故」「流水プールに関する事故」等々、社会的に「安全」に関して再認識・再確認をしなければならない悲惨な出来事が多くあり、「命」という漢字一字に重い意味を感じました。本団としても、団が関わる活動の中で幾度となく「安全」に関して団員に周知徹底してきたところですが、今年は「尊い命を失うような悲惨な事故」が二度と起きないように、団員が心同じくして奉仕活動に臨んでいく所存です。どうか、皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。
(役員一同・事務局)

「第2回介助員フォローアップ講習会」に協力しました

12月12日(火)、支部庁舎とその周辺の歩道を使用して「介助員フォローアップ講習会」が支部主催、本団協力で開催されました。当日は県下から57人の介助員有資格者が参加して、家庭看護法の知識と技術の復習をしました。本団からは5人のボランティアが早朝から集合し、講習会場の整備と受付、必要な資機材準備やタイムキーパー、その他諸々の雑用を担当し、参加した介助員の皆さんに有意義な一日を過ごしていただけるような講習を目指し奉仕しました。講習会の昼休みを利用して本団の概要を説明したり、また、講習の最後には介助員として必要不可欠な「気道内異物除去(食べ物が喉に詰まった時の応急手当)」についてシミュレーションを紹介し、介助員の皆さんに「安全」な介助について訴えかけました。本団のシミュレーションを見る参加介助員の真剣な眼差しは、今も忘れることはできませんし、本団員も満足できる奉仕でした。

介護の現場において、「安全」は常に念頭においていなければなりません。そんな意味でも、「介助員フォローアップ講習会」への本団の協力は、その目的とするところへの相乗効果が期待されるものと思います。介助員の皆さんの益々のご活躍をお祈りいたします。
(赤十字事業部会)

「日本救急医学会中部地方会」へ多くの団員が参加

12月9日(土)、アクトシティ浜松コングレスセンターを会場に「日本救急医学会中部地方会」が開催され、9人の団員が参加しました。特に「市民公開講座」の内容は、今後の活動に役立つものだったと思います。内容は今後、機会ある毎に紹介していただくことにしますね。そして、9人の参加者の皆さんから感想が寄せられていますので、来月号でお知らせしたいと思います。
(事務局)

今月の眼(見た)・耳(聴いた)！「ボランティアのお作法？」③

今回も、「ボランティアの規範」と題して、活動の心構えを紹介していきます。

- ① 仲間とよく話し合い、一人で仕事を抱え込まないようにしましょう。
- ② 災害は多種多様です、ボランティアセンターの運営に違いがあるのも当然です。被災地中心であることを忘れないようにしましょう。
- ③ 被災者と接する時は、相手と同じ目線に自分の目線を自然に合わせましょう。

今回で3回目となる「ボランティアの規範・心得・お作法」ですが・・・皆さんにはご理解いただけましたか？今後の活動の参考になればと思います。
(機関紙・広報部会)